

会 議 録

会 議 の 名 称	令和４年度第１回白岡市環境審議会
開 催 日	令和４年６月３０日（木）
開 催 時 間	午前１０時００分開会 ・ 午前１１時５５分閉会
開 催 場 所	白岡市役所４階 特別大会議室
会 長 の 氏 名	三宅 敏郎
出 席 者 の 氏 名・出席者数	白岡市長 藤井 栄一郎 白岡市環境審議会委員 三宅 敏郎、齋藤 俊治、久保木 孝夫、渡邊 昇子、 弓木 裕一、浅野 悦子、飯島 竜也、福田 慎太郎 鈴木 純二、稲橋 雅則 １０人
欠 席 者 の 氏 名・欠席者数	０人
説明員氏名	(1) 令和３年度リーディングプロジェクト関連事業の実績について：事務局 (2) 令和３年度白岡市環境基本計画（実績報告）について：事務局 (3) 令和４年度白岡市環境基本計画（当初事業）について：事務局
事務局職員の 職・氏名	市民生活部 部長 篠塚 淳 環境課 課長 関根 啓文 環境課 主幹 折原 浩幸 環境課 主査 村岡 信義 環境課 主査 安野 敏幸 環境課 主査 中澤 聡 環境課 主任 松原 直美 ７人
その他会議 出席者の職・ 氏名	（傍聴人） ０人

会 議 次 第	1 開 会 2 委嘱書の交付 3 市長あいさつ 4 委員紹介 5 議 事 (1) 令和３年度リーディングプロジェクト関連事業の実績について (2) 令和３年度白岡市環境基本計画（実績報告）について (3) 令和４年度白岡市環境基本計画（当初事業）について 6 そ の 他 7 閉 会
配 布 資 料	・ 会議次第 ・ 白岡市環境審議会委員名簿 ・ 資料１ 令和３年度リーディングプロジェクト関連事業実績 ・ 資料２ 令和３年度白岡市環境基本計画進行管理票（実績報告） ・ 資料３ 令和４年度白岡市環境基本計画進行管理票（当初事業）

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	1 開 会 会議を開会
藤井市長	2 委嘱書の交付 藤井市長から飯島委員に委嘱書を交付
藤井市長	3 あいさつ 藤井市長からあいさつ
事務局	4 委員紹介 委員の紹介 事務局職員の紹介
事務局	5 議 事 議事進行については、白岡市環境基本条例第31条第1項に基づき、会長に依頼する。
三宅会長	(1) 令和3年度リーディングプロジェクト関連事業の実績について これより議長の職を務める。 議題(1)令和3年度リーディングプロジェクト関連事業の実績について、事務局から説明を求める。
事務局	資料1に基づき、令和3年度リーディングプロジェクト関連事業の実績について説明を行う。
三宅会長	説明の内容に対して質問等はあるか。

A 委員	リーディングプロジェクト 1 の省エネ・創エネ機器について、この補助を受けた方々は、補助がたまたまあってラッキーという感覚だったのか、それとも補助があるから入れてみようという行動が変わったのか。このことについては、ぜひ計測された方がいいと思う。本当にこれが効率的な補助とか効果的な補助だったのかどうか分かるのではないかな。 その辺りで把握されている情報がもしあれば教えていただきたい。
事務局	現状ではそのようなヒアリング等はしていない。しかし、A 委員のおっしゃるとおり市民の方の声を聴くことにより、何が求められているのかを具体的に把握でき、より効果的な補助ができるようになると思うので、窓口で申請を受け付ける際にアンケートを取ること検討していきたい。
B 委員	今の御質問と内容は同じだと思うが、太陽光発電等、4 点について補助が出ているが、補助が出ているから設置しようとか、しないという程は金額的にもないと思う。 ただ、市の意向として、こういうものに対して補助をしていることは、市としても援助しているし、環境にも良いのでどうですかというひと押しをすることは可能である。 あとは他の市では、もうちょっと金額的に高額な補助をしているところもある。それからまた違った商品についても支援をしている。例えば、エコキュートなども電気を使うので、火力発電所の電気を使うからどうしてもそれはCO₂を出してしまうが、ガスだった

C 委員	り石油でお湯を沸かすよりは、電気で沸かした方がCO₂の削減になるということで、エコキュートについても補助を出しているところもある。 それからLED照明について、件数も6件ということで少ないが、もう長年ずっと補助を出しているけれども、なかなか条件的に2つ以上つけなくちゃいけないとか5,000円以上じゃないといけないとか、2,000ルーメンはクリアできると思うが、ちょっとあの補助をいただくのに、手続きが煩雑で大変だと思う。 太陽光発電とか電池とかの申請はいいが、LED照明に関してはもうちょっと申請方法を簡易にしてもらえたら申請件数は一気に増えると思う。 確か前回の会議でもお話したことだが、Bさんのその話に関連して、パネルの耐久年数が過ぎたものについてのメンテナンスの件について聞きたい。 ニュース報道でも伝えられているように、耐久年数が過ぎてメンテの期間がもう始まっている。それで前回は私からそういったメンテ費用、そういったものの援助や支援をしてもらえないかというようなお話をした覚えがある。 実際に私の知っている場合で、自分でメンテしようと思ったら非常に費用がかかり、これから何年使うかわからないし、メンテ費用を考えると太陽光パネル発電ではなくて通常の電力会社から買った方がいいというような話も聞いている。 なので、新しく付けるとかばかりではなく、その保守作業にかかる費用の支援も入れてほしいと思うがいかがか。
------	--

事務局	市としてはもちろんこの補助については引き続き継続していく考えでいる。 予算にも限りがあるが、可能な限りの範囲で他のニーズなども踏まえて、今後対応していきたいと考えている。
C 委員	また、別件で3枚目のリーディングプロジェクトの管理シート、下から2段目、教育指導課の管轄プロジェクトを推進するための数値目標についてお尋ねしたい。 市内小中学校におけるSDGsをテーマにした環境学習について、頻繁にやられているようだが、これはどのような方が講師として、またどのような内容で行っているのか、具体的に分かれば教えていただきたい。
事務局	具体的な中身等は分からないが、教育委員会からはこれだけの回数で授業において、環境教育をやったということで報告をいただいている。
C 委員	SDGsの問題は非常に複雑で、広範囲な話になる。なので、講師の方がどのような知識を持ってどのように話をされているのかそれを知りたいと思う。 その内容によってはあまり難しい話になってしまうと、時間をかけた割には子供たちが理解していないということになってしまう。それで具体的にどんな話をしているのか、それを聞きたいと思った。
事務局	以前、指導主事に話を聞いたことだが、環境教育を行う先生方は一定の研修を受けていると伺っている。 勉強会的なこともやっていて、小中学生の児童生徒

C 委員	の発達段階に見合った環境学習が効果的に繰り広げられるようにということで、配慮していると聞いたことがある。 それに関しては、小中学生がわかるような話し方というのは、我々大人にとっても非常に理解しやすい話だと思う。 生物多様性という言葉を使っても、子供たちは多様性って何って聞いても分からない。だけど、生物の種類が多いことですよと言うと分かる。 だからその辺の言い方とか、講師の説明能力とか、そういったものを、高める機会も含めて子供たちばかりではなく、一般市民に向けてもそういう機会をこれから催してはどうか。 それが環境教育に挑むための市民の取組、行動の取組、そういったものにつながるのではないかと思う。
事務局	市としても子供たち、あるいは大人に向けて引き続き環境学習など取り組んでいきたいと思う。
三宅会長	子どもたちへの啓発というか、指導教育というのは大変大事なことだと私も思う。 おそらく小学校の先生も大変だと思うが、そういうプロセスを経て市民全体の意識というのが変わってくる。そのことを考えると、やはりぜひ環境課の方にも何らかの子どもへの施策というか、作業をやっていたきたいと思う。 その他で何か気になるようなことはないか。
A 委員	リーディングプロジェクト 1 の数値目標の市役所庁

事務局	舎電気使用量の部分について、ちょうど最近電力需給逼迫注意報が出ていて、ニュースの中で東京都庁の中で職員の方が各課を見回って、ここは無駄な電気が点いているなとチェックをしている映像をニュースで見た。 もし、難しいことでなければ、この庁舎内でも同じように、定期的に見回って無駄な電気があれば消すとか、そういった指導をすると少しは使用量を減らせるのではないかと思っている。また、先ほど削減できるのにも限界があって、それで各職員に意識づけをしていくことが必要という話があったが、そういった職員向けの啓発や、意識づけをされているのかどうか、その2点を伺いたい。 まず庁舎の節電関係については、こういった電力需給逼迫に関わらず日頃から使用していない電気、照明、あるいはパソコンなども長時間使用しない場合は電源を落とす取組は常日頃から行っている。 また、ここ何日かの需給逼迫に関しては、庁舎を財政課が管轄しているが、その職員が見回りをして、業務に支障のない範囲で照明を消したりといったチェックをしているところである。 それから職員に対する啓発では、先ほど申し上げたように日頃から節電の意識については、例えばトイレなどでも、「こまめに電気を消しましょう」といった啓発の文書を掲示している。 また、環境課でも環境基本計画の進捗状況を各課に照会をかけて回答をいただいているわけだが、そういった機会を通じて職員一人一人に対しても、節電の取組については、啓発を行っているところである。
-----	--

A 委員	ぜひ啓発の効果が実際にできているかどうか、チェックはされた方がいいと思う。「啓発しました。皆さんやってください」で終わりにほしないでいただきたい。ちゃんと皆さんがやってくださっていただければいいと思うが、そうじゃない場合もあると思う。 ちょっと具体的な事例で言わせてもらおうと、先日エコドライブ講習会をやらせていただき、その後コミックサイエンスショーがあつて、移動の送迎をしていただいたが、私がエコドライブ講習会の中で「アイドリングストップしましょう」とお伝えしていたはずだが、送迎の間、乗り降りする間にエンジンがかけっぱなしで車が止められていた。 「アイドリングストップをしましょう」と直接お伝えさせていただいたが、やはり伝えただけでは実行に移らない場合があると思うので、ぜひPDCAサイクルのCheckとActionまでしっかり見ていただくと、より効果が出るのではないかと思います。
C 委員	今の話に関連してだが、去年コミックサイエンスショーに私も出席したが、朝はすごくまぶしい光、十分な明るさがあるのに全照明を点けていた。省エネルギーの話をしているのに、必要がない電気は点けている。それを私は先生方に話をしたが、あまり反応は良くなかった。その辺の基本的な態度というか、私はおかしいと思った。 だから表面的なものばかり見てその本当に根本的な省エネとは何かを勉強していかないと、省エネと結びつかないのではないか。 実際、この会議室の照明を見てもらいたい。これは必要な電気なのか。少なくとも、廊下側は多少暗くな

	るかもしれないが、窓側は本当に十分だ。 ２０１１年に東北で大きな地震があったが、あの直後はずいぶん暗かった。足元が見えないほど暗かったわけではないが、あの暗さで十分人にとって生活できた。それが、あれから１１年過ぎたらまた同じようなことをやっている。 そういった意味では例えば、省エネ環境でもいかにして生活水準を落とさないで、エネルギー消費を減らしていくとか、そういった問題をこの環境審議会でもどんどん取り上げていくべきではないか。せっかくの機会なのだから、皆さんいろんな議論を出して、どんどん話し合っていくべきだと思う。会議は１年間に１回か２回しかやらないが、丸々１年使っても私はいいのではないかと思うが、環境課や関係者の方も含め、どう考えているのかを聞きたい。
事務局	まずは、室内の照明について一部を消せていただきたい。 （室内の照明を一部消灯）
C 委員	もうこれで私は十分だと思うが、他の委員の皆さんいかがか。 （委員一同反対意見なし）
三宅会長	ただいまの話は市役所の話だけではないのはもちろんで、環境課の皆さんにはそれをいかに市民の方々に伝えていくかというのが大事になるし、それが仕事だと思っているので、ぜひお願いをしたい。

	ここで、先ほどD委員が到着されたが、新しい人もいたので自己紹介をお願いしたい。
D委員	(D委員による自己紹介)
三宅会長	それでは、改めて質問はあるか。
E委員	エコライフD a yについて、ここで自分の生活を振り返るということで、非常にいい取組ではないかと思う。 今回、環境課が実施したことの中で、幼稚園、保育園に配布ということであったが、これは子供用のものなのか。それとも大人用を配布されたのか 確認したいが、その後の評価の中には、学校をはじめとする公共施設にも配布しているので、幅広くやっているのか。裾野を広げられる事業なので、なるべく多くのところに配った方がいいのではないか。
事務局	これについては、幼稚園や保育園には子ども用のシートを配布している。 ただ、ここには「学校をはじめとする」と書いてあるが、令和2年度から学校には直接県がチェックシートを発送していたが、それがなくなってしまった。そのため、ここは記載誤りである。また、学校の方には市からも送っていない。 ただし、公民館や児童館などの公共施設に置いて、チェックシートを配布している。
E委員	それと、内容はともかく、自分でチェックすることが非常に大切かと思うが、これは市役所の庁内ではや

	っているのか。
事務局	やっている。市役所職員にも配布しているし、他にも市議会議員にも配布をしている。
三宅会長	それではそろそろこの部分の話は一旦ここで区切らせていただきたい。次も中身的にはリーディングプロジェクトも含めたような話でもあるので、次に進めさせていただきます。
三宅会長	(2) 令和3年度白岡市環境基本計画（実績報告） (3) 令和4年度白岡市環境基本計画（当初事業） 議題(2) 令和3年度白岡市環境基本計画（実績報告）、 (4) 令和4年度白岡市環境基本計画（当初事業）については、それぞれ関連があるため事務局から一括で説明を求める。
事務局	資料2、3に基づき、実績報告及び当初事業について説明を行う。
三宅会長	説明内容に対して質問等はあるか。
A 委員	実績報告の10ページの一番上の街づくり課の取組で、「2・大型店舗等の進出にあたり」とあるが、この大型店舗というのはどこのことか分かるか。
事務局	原課に確認しないと分からない。
A 委員	了解した。 そこを聞いたかった理由は、リーディングプロジェ

	クトでもあるが、市民への啓発や告知で、例えば生き物調査シートを環境課の前に設置したと聞いたが、啓発する場所が、影響力が弱いと感じる。2階の環境課まで来る市民がどれ位いるかと考えると弱いと思う。 例えば、上尾市では啓発のために上尾市環境推進大会を毎年文化センターのようなところで開催していたが、今はアリオ上尾の中で開催していて、黙っていても人がたくさん来るところにパネルなどを展示して啓発している。 さいたま市なども与野のイオンでエコライフイベントを毎年開催していて、いろんなパンフレットを配ったり啓発したり、T w i t t e rを使ったりSNSもすごくいいことだと思うが、その無関心層に情報を届けるためには、呼ばなくても来る場所があればいいと思い、白岡市に大型施設が私が知らないところでできていたのであれば、そういうところにパネル展示とか啓発品の設置とかされたらいいのではないかなと思ったので伺った。
事務局	啓発関係のチラシなどの配布は、今までだと、例えば庁舎や隣のこもれびの森、中央公民館、コミセンなどの公共施設にチラシを置いているが、民間のスーパーなどにも今後設置できるのであればしていきたい。
三宅会長	他に質問はあるか。
C 委員	話は変わるが、リサイクルセンターを市民のための環境教育の場所として有効利用できないか提案をさせていただきたい。 例えば、こういった自然材料のリサイクルの話だけ

事務局	ではなく、木材がロシアの戦争などの問題で不足し、建築材料が最近なかなか外国から入ってこないというような話もある。 それからその問題で、森林国である日本が供給できないとか、そういったことを自然に結びつけて話をするには非常にいい機会になると思う。そういったイベントを今後、市として実施してはいかがか。 ただ、今すぐに返事を欲しいわけではなく単なる提案なので、後に関連した話をしていただければそれで構わない。 そのリサイクルセンターは、主に木くずなどそういったものをリサイクルしている民間の施設だと思われるが、蓮田白岡環境センターでも、廃棄物の処理許可をしているところである。そういった関係もあるので一般の方の見学というのが可能かどうかはわからないが、今後ご提案の件については検討をしていきたい。
三宅会長	他に質問はあるか
A 委員	令和 4 年当初事業の 11 ページの上から二つ目に「低公害車・アイドリングストップの啓発」とあるが、こちらは次世代自動車ではなくて、低公害車でよろしいか。環境基本計画では次世代自動車となっている。
事務局	低公害車となっているが、環境基本計画に基づいた計画なので、次世代自動車という認識で構わない。こちらの進行管理票の表記を改めさせていただく。
三宅会長	他に質問はあるか。

事務局	ないようなので、私からも一つ質問をさせていただきたい。 実績報告で言うと16ページの下から3段目のプラごみ削減についてだが、ご承知のようにいわゆるプラ新法がこの4月に施行されて自治体にはプラごみのリサイクルについて、努力する義務が課せられたと認識している。 プラごみのリサイクルについては、自治体サイドの分別の話として白岡は焼却だということだが、この周辺でも分別していたり、リサイクル方向に進めている自治体はもちろんあり、白岡市と同じようにやっているところもある。 例えば、上尾では今燃やしているが、何年後かに伊奈町と新しい処理場を作って、その時には分別をしていくとアナウンスをホームページ上にあげている。要するにこれからどうしようかということの説明している。 そういう意味で、リサイクルする立場からすると、市の受け皿がないとどこへそれを持っていったいくのかわからない状況がある。白岡の行政として、このプラごみの焼却は、リサイクルには入らないという認識なので、それをこれからどうしていくのか。決まっていなかったら決まっていなくていいが、市の考えを教えてください。 プラごみの関係について、現在、白岡市は基本的には焼却という形で処分しているが、蓮田白岡衛生組合が対応している。プラごみの処分については、今時点ではまだ決まっていけないのが現状である。 今後、焼却施設の更新などを検討していく必要があ
-----	--

三宅会長	るので、併せてこのプラごみの施設の関係も検討していくことになると思う。 了解した。それぞれの自治体で事情があるのは理解できるので、進めていただければ結構だと思うが、例えば一般のスーパーでもトレーの回収をやっている。そういうところと何か連携したり、そういう施設で全部やるというのはなかなかそれは容易ではないのも分かるけれども、別の作戦としてプラ新法に適うような何か施策を考えていくということはないのか。
事務局	プラごみの関係については、蓮田白岡衛生組合に日曜日だけやっているリサイクルステーションがある。そこはダンボールや小型家電などを持ち込み無料で収集してリサイクルする施設である。その中でプラスチックのトレーは収集をしている。 今回プラ新法では、そういったプラスチックの容器包装だけではなく、プラスチック製品までリサイクルというのが努力義務としてあるが、そういった面でいうと、この分別については、市民の方の負担も大きくなる。 また、先ほど申し上げたように環境センターの施設がプラスチックを燃やす前提で設計されている施設なので、今までプラごみが燃料代わりになっている部分もあったが、それが分別で焼却しないと逆に重油の使用量が増え、ダイオキシンの関係である程度高温に炉をしないとイケなくなる。そういった面もあるので、このプラスチックの分別収集については慎重に検討していきたいところである

三宅会長	了解した。 私自身どのようにしたらいいか意見があるわけではないので、よろしく進めていただきたいと思うが、温暖化の炭酸ガスとプラスチックごみというのは非常に表に出るニュースである。 そういう意味では、こういうことをやっていますということの一つの売りにして、その自治体を特徴づけてもいいのではないか。それをやっている地方自治体もたくさんあると承知しているので、ぜひ白岡にとって、外から見てもいい方向に向かうような方針を進めていただきたい。 私からは以上だが、他に質問はあるか。
C 委員	話が細かくなり申し訳ないが、例えば、ペットボトルの蓋について、ペットボトルとは別に蓋は蓋で別に回収していて、我々の近隣の人の行動を見ていると、蓋は蓋で小さい袋に入れて出している。けれども回収車が来ると蓋もペットボトルも一緒に回収車に入れているがあれはなぜか。 例えば、プラスチックごみは、生ごみと一緒に回収してもいいと言われているが、蓋だけは別に回収するというのはどうしてなのか。 もし意味がなければ、そういった分け方をしろというのは真面目に守っている市民たちに対して失礼ではないかと思う。
事務局	ペットボトルのキャップを別々に分別して収集しているのは、プランターが主な物になるが、そういった物にリサイクルをさせていただいている。

C 委員	最終的にはその蓋は焼却してしまうのか。
事務局	蓋は主にプランターにリサイクルとして生まれ変わる。
C 委員	それは蓋だけなのか。
事務局	そうである。
C 委員	ごみ収集車の中にどんどん同じように詰め込んで清掃工場の中でまた分別するのか。 でも私が見た範囲ではどんどん詰め込んでいたが、それを帰って清掃センターで人の手で分けるということか。
事務局	収集してきた作業員が降ろす際に、別々に置く形になる。
C 委員	普通のプラスチックごみは、生ごみと一緒にそのまま指定の収集袋に入れてもいいが、それであればペットボトルの蓋、それは収集袋の中には入れてはいけませんと周知すべきでは。 それくらいははっきりしないと、市民が分からないのでは。私はその辺が非常に疑問に思っていた。なぜ分ける必要があるのかと。
D 委員	少しよろしいか。 地域によって、収集車によって違うかもしれないが、私たちのところに来るペットボトルの収集の車の運転手さんは、ペットボトルは本体の方に入れて、他は別

F 委員	にしている。 私からもよろしいか。 ペットボトルのキャップは、こういうリサイクルペットボトルの収集が始まる前に、既に小学校、中学校でキャップの回収を行っていた。 小学校や中学校にペットボトルのキャップ回収箱があり、みんなが持ってきていた。それは、リサイクルをするんだよという教育の一環と思っていたが、今はペットボトルを回収するときに、家庭からも別にして出してくださいという形になっていると私は理解していた。
C 委員	それであれば、プラスチックのボトルはどうなのか。プラスチックのボトルも生ごみと一緒に入れてもいいことになっているが、却ってプラスチックのボトルなどは量からしたら多いのでは。プラスチックのボトルはたくさんある。どうしてペットボトルの蓋だけにこだわるのか。
A 委員	私も素人だが、衛生面でいろいろな成分の混ざっているプラスチックは、リサイクルができるとかできないとか聞いたことがある。ペットでまとめてリサイクルできるし、キャップはキャップでプランターにできるが、卵のパックや納豆のパックは匂いがついたり色がついたり、いろいろ何かリサイクルができる、できないというのがあるというのは聞いたことある。 あと、C委員のおっしゃった一緒に入れているのは、おそらく作業員が違反をしているのではないか。ルールどおりに回収していない悪い作業員を見かけたとい

事務局	うことだと思う。 汚れてしまったペットボトルなどについては、燃えるごみで出していただくよう環境センターからも案内している。
三宅会長	回収のシステム全体を整備しなとなかなか思うように分別したものを綺麗にリサイクルするのは難しいと思うので、将来に向けて、ぜひ進めていただきたい。おそらく市が思っているよりも市民の感覚としては、分別できるならばしたいという人が多いのではないかなと個人的には思う。 私も知り合いが大阪とか東京に住んでいるが、七つぐらいに分けている。数人に聞いたただけだが、そのままごみを別に何の文句もなく分けている。 そういう意識の高い人はたくさんいると思うので、やはりそのような受け皿を作っていただくのは行政なので、最初に言ったことに戻るが、時間がかかるだろうけどよろしくお願いしたいと思う。
C 委員	最低限、生ごみとプラスチックを一緒にしてもいいということ、それはやめてほしい。
F 委員	ちょっとよろしいか。 私の意見として、白岡の収集の方法として、燃えるごみは全部燃えるごみとして集めて、燃えないものは別に集めている。 例えば、他の地区ではプラスチックやビニールは燃えないとして別にして、でも燃えるよこれっていうものもある。

	私としては、この収集の方法は非常に楽だと思ひ、それともう一つ、あまり何種類もない。 会長は理解が高い方だが、何種類も分別を要求すると、まず、きちっと分別できる人ばかりではないと思ひ。そうすると、加減な分別も増えてくるし、市民の負担も大きいと思ひ。今燃えるごみとしてプラスチックを入れてしまっているというのは、燃料としては非常に良いことだと思ひ。燃えるために一切の燃料を入れずにプラごみで燃えている。
C 委員	それは事実か。
F 委員	はい。 途中からは一切燃料を入れないで燃えてくれるのはプラごみのおかげなんだという話をだいぶ前に聞いたので、プラスチックをある程度入れるのは、燃料としての意味があると思っていた。
C 委員	それは事実か。
F 委員	プラスチックやビニールを燃えないものとしていたところは、逆に重油を入れて燃やしている。
C 委員	何が何でも奇麗に分別するとは言わないが、少なくとも生ごみとプラスチックを一緒にしていいこととは、私は疑問がある。少なくとも、白岡市よりもかなり細かく分別する自治体はたくさんある。 そういったことまで急にやれとは言わないが、せめて生ごみとプラスチックが一緒になっているのは、私はどうしても理解できないし、それは分けて欲しいと

F 委員	思う。 プラスチックを燃料として入れなくても済むような形で燃やせるのであれば、つまり、後から重油入れるということがないのであれば、プラスチックは再利用した方がいい。 でも、重油を入れなければ燃えないのであれば、プラスチックそのものを重油の代わりに入れて燃やした方が効率的だと思う。 そして、分別するのも楽になるから、ごみを出すときにも楽になる。
C 委員	そういう考え方があるとは私は知らなかった。 例えばプラスチックを入れることが燃焼の促進に寄与するから、プラスチックを入れるのだと、一緒にしているのだと、そういう理解でよろしいのか。
三宅会長	少しよろしいか。 たぶんFさんが言われたのはそのとおりだと思う。それは私も承知しているが、今のリサイクルの新しい考え方、政府が出している考え方は要するに、まずあるエネルギーを作るといろんなプロセスの中で炭酸ガスが出ていくが、それをいかに少なくするか。少ないプロセスを作り上げるかっていうことを考えようとしている。そのときに、プラスチックのごみは全部燃やすとまったくいい。 それを例えば綺麗に洗浄してリサイクルすると、もういっぺん使えるようにすると、その材料の寿命として最終的になくなってしまいう、例えば、炭酸ガスと水になってしまうまでの期間の間にどのくらい炭酸ガス

A 委員	を出さずに材料は一生を終えるかという意味合いでいうと、リサイクルした方がいいということだと思う。 だから今は燃焼させるっていうことは、昔はリサイクルに入っていたけれども、今は入れていない。分けている。 少し大げさだが、地球環境に基づく考え方として、今は燃焼かもしれないが、それを変えていこうとしているのが新しいプラ新法だと私は認識しているが、いずれにしても、いろいろな御意見があって、そういう議論が今日あった分、環境課の人に聞いていただいていたということで、いずれにしても何度も繰り返し申し訳ないけれども、将来どうするかっていうことをやっぱりアナウンスしてほしい。 上尾ではこういうふうにするという意思表示をしているし、そうじゃないもう既に分けているところも説明をしている。白岡は特に説明してないし、今年の令和4年の予定の中にも別に特に何も書いてない。何か市民に対して、説明してこういうふうに行っていきたいというリードすることが必要じゃないか。いろいろなところに話が行ってちょっと整理ができてなくて申し訳ないが、お願いをしたいと思う。 さらに何か来年の予定、今年の成果でみなさんから御意見があれば伺いたい。 最後に一つだけ、今日Bさんから聞いたお話がすごく私の中で納得ができた。補助金について、これがあることで最後にひと押しになると。「これを導入しませんか」と、それはすごく納得いった。そういう効果があったのかと気付いた。 あと、同じように市として、市民の皆さんにこうい
------	--

	うのを入れてほしいんだよという姿勢を見せるというのにも意味があるのだなというのは非常に気付かされた。 そういった意味では以前、蓮田市さんの市報をお持ちしたことがあったと思うが、市の環境に対する取組の姿勢を全市民に知らしめる意味で、ぜひ表紙を狙っていただきたい。広報白岡の表紙で環境に関わる食ロスでもSDGsでもプラでも何でもいいと思うが、そこをぜひ、たぶんいろいろなところが表紙に出したいと思っているところだと思うが、姿勢を見せる意味でぜひ狙っていただきたいというのが最後に私がお願いというか、期待をしたい。
C 委員	すみません、何度も。 この環境審議会についてだが、年に2回か3回ぐらいしか開催されず、それも僅か2時間だけである。非常に重要な問題であるのに年に2回程度で、たった2時間で良いわけがない。もっともっと議論すべきことがたくさんある。それにもっと市民を巻き込んではいかがか。 なので、少なくとも年に4回とか、2時間ではなく4時間とか議論すべきではないか。これだと本当に形だけのアリバイ作りのためにやっているのではないか。少なくとも私はそのように感じてしまう。 それはできないのか。例えば年に4回とか、あるいは事前に議題を出しておいて、それについてディスカッションをすとか。そうしないと今回の会議の成果も結局止まってしまうのではないか。
三宅会長	ちょっと横からすみません。

	私も基本的にはC委員の考えと一緒にだが、ただ、例えば4時間にするとしたら、審議会に来る方の予定とかも大変だと思う。 ただし、C委員の言われるとおり、議論は非常に中途半端であるというのは感じるので、何かやり方でうまくできないのか。 例えば、言いたいことは最初から出しておいて、1個1個喋るのではなくて、もうちょっとコンパクトに議論を進め、要するに事務局からのお答えがもう用意されていて、それについて話しをするとか。1個1個に行ったり来たりするような、あるいはないようなとか。少なくとも有効な会議のやり方をしたい。 企業でも最近そのようにしているところがある。既に全部資料は読んできて、そのときに説明するのではなくて、最小限の最後の必要な議論だけを対面するような会社があるという新聞記事を見た。 C委員に言われているのと、なかなか時間作れないということの接点は作れるのではないか。もちろん少し、例えばちょっと時間を延ばすとかも含めてできるのでは。
C 委員	あらかじめ議題だけは用意をしておいていただきたい。どんなことについて議論するのか、それがなければやる意味は私はないと思う。
事務局	おっしゃるとおりだと思う。我々もなるべく資料は中身を見ていただく時間も考えて、1週間程度前には配布をさせていただいている。時間の関係については、委員の中には仕事をお持ちの方もいらっしゃると思うので、なかなか長時間というのは難しいという方もい

	らっしゃるかとは思いますが、そういったところも踏まえて検討していきたい。
三宅会長	ぜひ検討をしていただきたい。 今日のところは時間を決めてやっているの、そろそろこれで話の方は区切りにしたいと思う。
委員一同	承知した。
三宅会長	議事が全て終了したため、議長の職をおりる。
事務局	6 その他 その他に関して、各委員から何かあるか。
委員一同	なし。
事務局	7 閉 会 会議を閉じる。

以 上